



1階クライアント用トイレから受付方向を見る。手前に受付カウンター。受付に並んで、手前から第3・第2・第1診察室。診察室は半透明のガラス張り。開放的な吹き抜けの空間。



曲面の壁と螺旋階段の立体的な視覚効果によって空間に実際以上の広がりを感じられる。待合室の椅子は様々なデザインのを配置しながらも統一感を出している。

さくら通り動物病院は移転・新築のお手伝いでした。北岡大輔院長との打ち合わせは旧病院での業務終了後に開始し、深夜に及ぶこともしばしばでした。旧病院で使い勝手の悪かった点や、クライアントの不満の改善に主眼を置きました。そして、移転新築のキーワードとして「視認性に優れた格式ある外観」「人と動物がリラックスできる空間」「スタッフに配慮した設計」が導き出されました。

外観は一部に曲線を取り入れることで建物の大型化に伴う印象の硬質化を回避。駐車場は自動車利用が多く見込まれることから乗り入れのしやすさを考慮。模型や実地での計測・検証を重ね、10台分の駐車スペースを確保しました。全体計画として、旧病院でワークスペースや待合が窮屈だったことを受け、可能な限り余裕のある広さを確保することを目指しています。待合室は「できるだけ開放的に」という北岡院長の強い希望がありましたので、吹き抜け天井と緩やかな曲面により広々とした空間を演出しています。2階にガラス張りのトリミング室を設けて待ち時間の退屈さを解消。螺旋

階段をアクセントとして視線を誘導させる設計としました。

エントランスを入ると右正面に受付。受付の左側、待合室に平行して第1～3診察室が並びます。ワークスペースでは、検査・処置室に加え診察室近くにも顕微鏡等の検査スペースを配置。さらにフード等の在庫スペースを受付近くに大きくとりたいとの要望でしたので、薬局との

動線を考えながら配置しています。入院室は犬舎、猫舎、隔離室に加え、入院準備室兼重症患者用の入院スペース(病舎)をICUとは別に設けました。各入院室には汚物がすぐに流せるように小児用便器を配置しています。さらに小さいながらも多目的室を設置。この部屋は診察までの待ち時間の間に行えるような軽処置や採血、入院動物とクライアントの面会な

螺旋階段を上った先にある2階待合室。トリミング利用だけでなく1階待合室の席数補助の役割も。

